

# 関電電気料金値上げ問題 Q&A

## 【関電は、なぜ原発を推進するのか】

Q 1 : 「原発をゼロにせよ」の世論が圧倒的なのに、なぜ関西電力は原発を推進するのか。

『関電の説明』

○国民の皆さんから厳しいご意見があるのは承知している。一方で産業界を中心に原子力は必要との声もある。

○当社としては3つのE（エネルギー安定供給、経済性、環境保全）の観点から、エネルギー源の多様性（ベストミックス）が重要であると考えているので、安全性が確認された原子力プラントについては稼働させ、重要電源として活用したい。

○福島第一事故から得た反省と知見を踏まえ国際的にも最高水準の安全を確保し国民に応じていく。

### 『私たちの見解』

1, 空前絶後の福島原発事故による惨状は、ひとたび放射性物質が大量放出されると、人類はその被害を防止する手段がないことを明白にした。2012年末現在福島県から避難している人々は16万人にのぼっていて帰るべきふるさとを失ってしまった。これはスリーマイル・チェルノブイリ原発事故を経験したにも関わらず、「安全神話」を継続させてきた「原子力利益共同体」と彼らに支援されてきた政権の責任にあることは間違いない。さらに、使用済み核燃料を安全に処理する技術も出来ず、無害になるまで数万年を要することが今や全国民の前にさらされている。

事故率年平均0.5回以上		
	万KW	回
1 敦賀1号	35.7	1.4
2 大飯1号	117.5	1.2
3 東海第二	110.0	1.1
4 福島第一1号	34.0	1.0
5 大飯2号	117.5	1.0
6 泊3号	91.2	1.0
7 福島第一2号	78.4	0.8
8 高浜1号	82.6	0.8
9 高浜2号	82.6	0.8
10 美浜2号	50.0	0.7
11 美浜3号	82.6	0.7
12 福島第二1号	110.0	0.7
13 浜岡5号	126.7	0.7
14 美浜1号	34.0	0.6
15 伊方1号	56.6	0.6
16 柏崎刈羽6号	135.6	0.6
17 志賀2号	120.6	0.6

2, よって、国策として直ちに「原発ゼロ」を決め、全原発の再稼働も止め、廃炉のプロセスを明確にし、核燃料サイクルによるプルトニウム循環方式から撤退し、「原子力利益共同体」による原発輸出も中止する。

3, 関西においては、若狭湾に15基の原発が有り、全国に比べ最も老朽化が進み、福島第一規模の事故が発生すれば、琵琶湖汚染も含むため、創造を絶する関西全域の破滅につながる可能性を示している。現に地震学・地質学による新しい知見がその危険性を指摘している。

4, 「エネルギー安定供給、経済性、環境保全」について。①「安定供給」そのものが破綻していることを関電トップは真摯に認めるべきであろう。巨大原発の下に活断層存在が示され、大電源脱落が現実となった。また、核燃料サイクルが止まると核燃料廃棄物の置き場も無くなり自動的に原発運転は不可能となる。②「経済性」は東電事故の巨額損害賠償

(今度の値上げの原価にも東電賠償支援分損金が入っている) や数万年の核燃料廃棄物処理処分費用は天文学的である。③「環境保全」とは「発電時にはCO2を出さない」ことを指しているが、ウラン採掘から数万年後の処理処分に至る全工程でのエネルギー使用によるCO2発生は膨大であり、同時にいま全原発停止で新旧化石燃料火力発電によって一気に日本はCO2発生量を飛躍させてしまった。

### 日本と世界の「原発安全」常識は、こんなに異なる！！

速水作成

<p><b>政府・電力会社による 今までの安全神話</b></p> <p>多重防護で絶対安全だ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウラン焼き固めペレット</li> <li>ペレットの被覆管</li> <li>原子炉圧力容器</li> <li>格納容器</li> <li>原子炉建屋</li> <li>緊急炉心冷却装置</li> </ul> <p>(これはもう通用しない)</p>	<p>⇒</p>	<p><b>1986年チェルノブイリ事故後 IAEAが定めた本当の五層防護</b></p> <p>第1層・異常の発生防止(フェイルセーフ設計、インターロック、バックアップ系統など)</p> <p>第2層・異常の拡大防止(原子炉の緊急停止系統の設置)</p> <p>第3層・事故時の影響緩和(ECCS、など原子炉格納容器の過熱事故防止対策)</p> <p>第4層・過酷事故対策発生時対応(原子炉を緊急停止させる対応策のすべて)</p> <p>第5層・過酷事故時発生時対応(周辺地域に対する緊急避難などの対応策すべて)</p> <p>(日本は、この世界常識を無視してきた)</p> <p>(世界は最悪事態を想定)</p>
---	----------	--

5, 「国際的最高水準の安全性」については、チェルノブイリ事故後の『5層の安全防護施策』も今も守っていない点は最も反省すべきなのにひとと言も述べていない。